

図書館だより

5月図書館カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
③	④	⑤	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

○印 休館日・祝日(3日・5日)
月曜・祝日(3日・5日)
月末館内整理日(29日)

今月の新刊図書案内

一般図書

知のノウハウ
呪術と占星の戦国史 小林 裕
長江文明の発見 小和田哲男
立花隆のすべて 徐 朝竜
警察が狙撃された日 文芸春秋
住民紛争のたたかい方 谷川 葉
根来冬二



きつねのスケート

ゆもとかずみ 文 徳間書店刊
大きな湖のほとりの小さな森に、旅のきつねがやってきました。小さな森の動物たちは疲れたきつねを親切にたすけてあげました。でも、元気になったきつねは湖の向こうの大きな森に行きたがります。のねずみは湖を渡る方法を言いますが…。

謀将山本勘助 上・下

南原幹雄著 新人物往来社刊
武田信玄・上杉謙信・織田信長



信長がくり広げる天下を賭けた争覇戦を陰で演出した「謎の軍師」山本勘助。戦国動乱に命を賭けた軍師の波乱万丈の生涯を描く衝撃の戦国巨篇。

おいしい野菜選びのコツ
人が人を裁くということ

福祉で町がよみがえる

岡本祐三ほか

いじめを許す心理

正高信男

脳をボケさせないQ&A

大友英一

手軽に楽しめる気分転換法

日本経済新聞社

お役人の無駄遣い

住田正二

メス化する自然

デボラ・キヤドバリー

園芸植物の殖やし方・育て方

中山草司

木彫・塗りの入門技法

渡辺一生

邦子のリサイクル大好き!

山田邦子

決戦前夜

金子達仁

日本語うんちく事典

中江克己

日本語うんちく事典

簡井ガンコ堂

必冊池波正太郎

ダイオキシンから身を守る法

季語を生かす俳句の作り方

鷹羽狩行

道頓堀の雨に別れて以来なり上・下

田辺聖子

非花

井上祐美子

乱世光芒

嶋津義忠

秘剣埋火

戸部新十郎

天の瞳 少年編1

灰谷健次郎

幸福の遺伝子

早野 梓

百人の王様わがまま王

原田宗典

私は世界で嫌われる ビートたけし

絶対音感 最相葉月

恋愛をめぐる24の省察

アラン・ド・ポトン

水の国を見た少年 マイケル・ドリス

眠り姫 ダニエル・キイス

外二七冊

児童図書

モノづくり断面図鑑

ふれあいの手話 2期1-4

アルミ缶の実験

ひと・どうぶつ行動観察じてん

イヌのいいぶんネコのいいわけ

かんたんコインとお札の手品

ジョンはかせのたんじょう日

ひなさまのうた

つるばら村のパン屋さん

奇跡の犬タマ公

ザンジバルの贈り物

じてんしゃにのりたい!

ともだちふやそ

とこやへいこう

へんてこ島うた

おしゃべりくれよん

わたしのきもちをきいて 1・2

外八六冊

心の健康シリーズ (61)

過保護は子どもをダメにする



最近、親の子どもへの呼び名を聞いてみると「○○ちゃん」とか「○○さん」という呼びかたをよく聞きます。これは正しくは「さん、くん」はつけません。これは敬語の使い違いというよりは、過保護の現れであると思います。

また、ある時、聞いた話ですが、毎朝、学校へ行くとき、友達を迎えにいくと「ハイイ」と返事するのは、いつもお母さんだそうなんです。このように当然、子ども自身がすべきことまで、親が代行していることがふえてるように思います。そして、これも、やはり、過保護の一つの現れであるといえます。

現在は家庭内の電化や既製品の氾濫で手間のかかる仕事も省かれその上、少子化のため、どの子にも深い愛情をと思う余り、あれも、これもと先回りして、面倒を見てやるようになり、その結果として知らず知らずに子どもは手も頭も使われない子に育てられています。

昔から日本には、「可愛い子には旅をさせろ」とか「他人の飯を食わせろ」「若いときの苦労は買ってでもせよ」という教えがあります。

子どもを過保護に育てると子どもの心身の発達は遅れます。いつまでも依頼心がつよく、自立心が

芽生えず、従って忍耐力も協力心も責任感も育たず、利己的でわがままな仲間の嫌われ者になってしまう。

子どもは生きる力を秘めているのです。それをどう引き出し、育てるかが子育ての重要な所です。先月、テレビで十何人子どもがいる家庭の放送を見ました。物の奪い合いをする子、泣く子、食事する子ありで、にぎやかなものでしたが、親は子ども一人ひとりにしかかわらず食事とか洗濯などみんなのことに追われ、食事やおかずをもののは子どもたち、洗濯物を取り込んでおくところから子どもが自分のものを取り出し整理し、アイロンかけも自分でしたり、小さい子の片付けも手伝ってやるという具合で、「自分のことは自分で」が行き届き、当たり前になつており、小さい子の面倒は大きい子の役割のように、だれでも良く面倒を見てやり、親が言い付けるような場面は見られませんでした。

子ども一人ひとりが自立して、お手伝いや兄弟の助け合いがあり、たくましさがあつて微笑ましく感じました。

子育ては、初めは両手の十本の指でしっかりとつかみ、子どもの成長とともに指を一本ずつ離していく心掛けが必要です。

子どもの悩みことは

教育相談室へ

(八潮屋台展示庫前)

月・金 午前9時

午後4時30分

☎(43)1323